

都之城(鶴丸城)(市指定史跡)(都城市都島町)(城山公園)

都之城（みやこのじょう）は、宮崎県都城市都島町にあった日本の城である。都城とも表記する。別名を鶴丸城。形式は山城。

概要

天授元年/永和元年（1375 年）、島津氏の支族である北郷氏（都城島津氏）第 2 代当主北郷義久が築城し、以後北郷氏の本城となった。

都島に築城されたために都之城と名付けられ、後に一帯の地名の由来となった。庄内十二外城と呼ばれる支城群を備え、都城盆地全体を守る構えとなっていた。

築城後の天授 5 年/永和 5 年（1379 年）、宗家で従兄の島津氏久が室町幕府の九州探題今川了俊と争い、北朝から南朝方についたため、了俊の 5 男満範が率いる南九州の国人衆の大軍を迎え撃つこととなるが、辛くもこれを撃退している（蓑原の合戦）。

伊集院氏が支配していた慶長 4 年（1599 年）には庄内の乱の本拠地となった。庄内の乱後、再び北郷氏支配となるが、元和元年（1615 年）、一国一城令により廃城となり、北郷氏は現在の都城市役所敷地内にあった領主館に移る。

現在の城址は城山公園として整備され、本丸跡には城郭風建築の都城歴史資料館が建てられている。また、本丸から掘割を渡った西城跡地には、神武天皇を祭る狭野神社（西諸県郡高原町の狭野神社を分祠したものか）が建立されている。なお、南側は日豊本線により分断されており、さらに南まで城域を有していたが、現在では住宅地となっている。

Wikipedia による



都之城跡縄張図

